

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域 3 チームで取り組む緩和的放射線治療「演習 3」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域 3「チームで取り組む緩和的放射線治療」において、「演習 3」を開催しました。

Radiation Therapy Program Intensive Course

QRコード
単回受講申込フォーム

**単回受講可
参加費無料**

**次世代のがんプロフェッショナル
養成プラン**

放射線治療プログラムインテンシブコース

《領域 3：チームで取り組む緩和的放射線治療》
演習 3 『多職種連携における診療放射線技師の役割』
1月10日（土） 13：00～16：00
会場：順天堂大学医学部 医局棟 8階 会議室 1

コーディネーター：岡野奈緒子（順天堂大学練馬病院）
ファシリテーター：稲毛由佳（順天堂大学練馬病院） 大嶋健悟（獨協医大埼玉医療センター）
高橋英一（都立駒込病院） 原直哉（順天堂医院）
藤木浩子（多摩総合医療センター）

がんプロ養成プランHP お問い合わせ用フォーム

対象者 看護師・診療放射線技師・薬剤師・医師など

連絡・問い合わせ先
順天堂大学放射線治療学講座
TEL.03-5802-1230（放射線科医局）
担当者 鹿間直人、島村彩子、遠藤純子

共催：順天堂大学大学院医学研究科
このプログラムは文部科学省補助金事業
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」
の助成を受けて開講致します
後援：順天堂大学 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

演習 3

1月10日（土）13：00～16：00（順天堂医院 医局棟 8階）

テーマ「多職種連携における診療放射線技師の役割」

プログラム担当：岡野 奈緒子先生（順天堂大学練馬病院/放射線科 医師）

ファシリテーター：稲毛 由香先生（順天堂大学練馬病院 診療放射線技師）

大嶋 健悟先生（獨協医大埼玉医療センター・診療放射線技師）

高橋 英一先生（都立駒込病院・診療放射線技師）

原 直哉先生（順天堂医院・診療放射線技師）

藤木 浩子先生（多摩総合医療センター・放射線療法認定看護師）

<スケジュール>

- ・オリエンテーション/ファシリテーター紹介/参加者紹介
- ・グループワーク①（アイスブレイク）：「仕事見える化ボード」日常臨床編
- ・講義①「診療放射線技師（治療）の役割」岡野 奈緒子先生（順天堂大学練馬病院 医師）
- ・ロールプレイ<2名1組>：緩和的放射線治療患者の初診
（問診から放射線治療のやり方の説明[簡易]）症例：前立腺癌骨転移、乳癌骨転移
- ・講義②「患者の満足度を上げるコミュニケーションのコツ」
菅野 康二先生（順天堂大学東京江東高齢者医療センター/呼吸器内科 医師）
- ・グループワーク②「仕事見える化ボード」 シチュエーションカード編

要旨：仕事が「見える化ボード」を中心に施設ごとに各職種での業務分担の実際について視覚化しながら共有しました。その後、骨転移の症例を題材に普段あまり立ち会うことのない診察の場面を体験し、患者とのコミュニケーションの取り方を試行錯誤したり、そこから診療放射線技師ができることなどをペアで考えたり、お互いにフィードバックしました。また、2つのミニレクチャーを踏まえ、後半では装置故障時や体位保持困難など実際の治療で起こるようなシチュエーションでの対応について「見える化ボード」を用いて検討し、通常業務との違いを確認しました。施設による業務の種類やその分担について共有し、日常臨床を振り返るとともに、緊急時の対応や流れについても各グループともによく検討され、緊急時対応などでは特に同時進行の業務が増えることから各職種間で意識的に情報共有をするように心がけることなどが提案されました。また、「見える化ボード」など、他の機会でも使用できるコンテンツが作成され、その有用性が確認できました。参加者は23名でした。

